

■技術的依存度分析シート

この分析シートを用いて、定期的に自社のシステムを評価することで、技術的依存度の低減とDXの推進に向けた具体的な道筋を立てることができます。

※技術的依存度についての詳細はこちら⇒<https://www.inter-stock.net/column/no498/>

1. システム構造の評価			
評価項目	スコア	指標	備考
基幹システムの集中度		1:完全に分散 ~ 5:完全に集中	各部門業務が基幹システムに集中してるか
モジュール化の程度		1:高度のモジュール化 ~ 5:モノリシック	システムの機能が一枚岩になっていないか
サービス指向アーキテクチャの採用度		1:完全採用 ~ 5:未採用	各機能を独立したサービスにしているか
マイクロサービスの利用度		1:広範囲に利用 ~ 5:標準化なし	独立したサービスの利用範囲と頻度
APIの標準化レベル		1:完全に標準化 ~ 5:標準化なし	APIで標準化されたインターフェースをもつか
2. 開発プロセスの評価			
評価項目	スコア	指標	備考
部門間の開発依存度		1:完全に独立 ~ 5:高度に依存	部門間で必要な機能のお互いの依存度
新機能追加の容易さ		1:非常に容易 ~ 5:非常に困難	新機能をデプロイメントする際の難易度
テスト自動化の程度		1:完全に自動化 ~ 5:手動テストのみ	テスト工程の自動化の採用範囲とレベル
デプロイメントの頻度		1:日次/随時 ~ 5:年1回以下	新機能や改善機能の本番リリース頻度
CI/CDパイプラインの整備		1:完全整備 ~ 5:未整備	ビルド、テスト、デプロイの開発プロセス
3. データ管理の評価			
評価項目	スコア	指標	備考
データの分散度		1:適切に分散 ~ 5:一カ所に集中	各部門のデータが基幹に集中しているか
データアクセスの柔軟性		1:非常に柔軟 ~ 5:硬直的	データを利用できる自由度
データ連携の自動化		1:完全自動化 ~ 5:手動のみ	データを利用、連携する際の手段
リアルタイムデータ処理能力		1:完全対応 ~ 5:バッチ処理のみ	必要なデータ処理を実行する際の手段
データガバナンスの成熟度		1:高度に成熟 ~ 5:未整備	データアクセスの安全性と効率性を評価
4. システム運用の評価			
評価項目	スコア	指標	備考
障害の影響範囲		1:局所的 ~ 5:全体に波及	基幹システムに障害が発生した際の影響範囲
システム監視の自動化		1:完全自動化 ~ 5:手動監視	システムの監視の方法
スケーラビリティ		1:容易に拡張可能 ~ 5:拡張困難	データ量拡張、機能拡張、ユーザー拡張
セキュリティの分離度		1:完全に分離 ~ 5:一元管理	セキュリティに問題が発生した際の分離度
ダウンタイムの頻度		1:ほぼゼロ ~ 5:頻繁に発生	基幹システムのダウンタイムの頻度
5. 組織とプロセスの評価			
評価項目	スコア	指標	備考
IT部門と主要部門の連携		1:密接に連携 ~ 5:分断	IT部門や開発ベンダーとの関係性を評価
アジャイル開発の採用度		1:全面採用 ~ 5:未採用	アジャイル開発の採用度を評価
クロスファンクショナルチームの形成		1:完全導入 ~ 5:サイロ型組織	部門間を横断したチームが存在するか
技術的負債への取り組み		1:積極的に対応 ~ 5:無視	技術的依存やベンダーロックインへの対応
イノベーション文化の醸成		1:高度に醸成 ~ 5:変化を嫌う文化	変革や挑戦を生み出す組織文化の醸成

<評価方法>

全項目のスコアを合計し、以下のスケールで評価してください。

- ・25-50点:低依存度・・・自律的システムに近い状態
- ・51-75点:中程度の依存度 - 改善の余地あり
- ・76-100点:高依存度 - 早急な対策が必要
- ・101-125点:極めて高い依存度 - システム全体の再構築を検討すべき

<アクションプラン>

1. 最もスコアの高い(問題のある)項目を3つ特定する。
2. それぞれの項目について、改善のための具体的な施策を立案する。
3. 短期(3ヶ月以内)、中期(1年以内)、長期(3年以内)のタイムラインで実行計画を策定する。
4. 定期的(四半期ごと)に再評価を行い、進捗を確認する。